

## 令和7年度全国学力・学習状況調査における

### 北九州市立 市丸 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

#### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問調査

児童質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の6年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	平均正答率は、全国と比較してほぼ同等である。学習指導要領の内容別平均正答率は、(2)情報の扱い方に関する事項、(3)我が国の言語文化に関する事項、B書くこと、において全国平均正答率を上回っている。
	よくできた問題	図表などを用いて、自分の考え方が伝わるように書き表し方を工夫することができるかをみる問題は、正答率が100%だった。
	努力が必要な問題	目的に応じて、文章と図表を結び付けるなどして、必要な情報を見つけることができるかどうかをみる問題は、正答率が全国平均を下回っていた。
算数	全体的な傾向や特徴など	平均正答率は、全国平均を上回っている。学習指導要領の内容別平均正答率は、5つの領域全てにおいて全国平均正答率を上回っている。特に、B図形の領域の平均正答率が高かった。
	よくできた問題	資料から必要な情報を選び、数量の関係を式に表す問題や、小数の加法で数の相対的な大きさをを用いて、共通する単位を捉える問題は、正答率が100%だった。
	努力が必要な問題	数直線上で1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾分として捉えることができるかをみる問題は、正答率が全国平均を下回っていた。
理科	全体的な傾向や特徴など	平均正答率は、全国平均を上回っている。学習指導要領の内容別平均正答率は、4つの領域全てにおいて全国平均正答率を上回っている。特に、「エネルギー」を柱とする領域の平均正答率が高かった。
	よくできた問題	赤土の量と水の量を正しく設定した実験方法を発想し、表現する問題や、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識の定着をみる問題は、正答率が100%だった。
	努力が必要な問題	レタスの種子の発芽条件について、差異点や共通点を基に記述することができるかをみる問題は、無回答率が全国平均を上回っていた。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
<p>・朝食、就寝、起床などの生活習慣に関する質問では、肯定的な回答の割合がほぼ100%で、基本的な生活習慣が定着している。</p> <p>・「自分にはよいところがあると思いますか」「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問では、肯定的な回答の割合が100%で、自尊心が高いことがわかる。</p> <p>・「5年生までの授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度活用しましたか」では、「週3回以上」と回答した児童の割合が85%で、ICT機器を普段の授業でよく活用していることがわかる。</p> <p>・「学校での授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」では、1時間以上勉強をする児童の割合が85%だが、「学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」では1時間以上勉強をする児童の割合が70%であり、やや下がる。どちらも「全くしない」は0%で、宿題をきちんとする習慣がついている。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 授業の中で、自分の考えを書く時間や、お互いの考えを出し合って比較する時間を設定する。
- GIGA端末を授業の中で活用する機会を増やす。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 休日の勉強時間を増やすため、宿題の量や内容を工夫したり、家庭での時間の使い方について学校・学年通信や保健だよりで保護者に啓発したりする。